

は
が

放課後、2～3時間湖面にでます

静かな引原ですが、平成16年のじぎく兵庫国体でカヌー競技が行われ、そのあと音水湖がカヌーの練習場となりました。四季折々の美しい景色に、カヌーが似合う新しい風景が加わりました。今、音水湖では、ほとんど毎日伊和高校のカヌー部員13名が日没まで練習をしています。練習をしないのは積雪で車がダムまで

国道29号線を北へ走っていくと音水湖があります。この引原は、かつては小学校、中学校がある大きな集落でしたが、ダムの建設により集落は湖底に沈み、現在は6軒になっています。

湖面に響く水しぶき
めざせ、日本一

1,000メートルの常設コース。日本でも数えるほどしかありません

来れない時と、カミナリの時だけです。

部員の皆さんは、「練習のしんどさが、楽しさにかわる。」「自分に勝つ、そしていい結果を出したい。」「その活気が地元の人たちにも伝わっているようで」「にぎやかになってよかったなあ。」と言われています。

カヌー部顧問の二宮先生は、「どこに試合に行ってもこんなきれいな所は無い。ダムを汚さないように使わせてもらっている。」「と話されます。高校生のがんばりを応援してください。」

(波賀支部 上田めぐみ)

ち
くさ

善意月間に美化活動

ちくさ「ボランティアの日」



180kgのゴミを回収

6月5日(土)、千種ボランティア連絡会と社協千種支部の呼びかけにより、町内美化活動を行いました。

この取り組みは、善意月間にちなみ、毎年6月の第一土曜日を「ボランティアの日」とし、環境美化に目を向けようと、平成18年より実施しています。

当日は、ボランティアをはじめ、千種高校の生徒や親子連れなども参加し、町内の至る所で「ゴミ袋を手に、「ゴミを拾い歩く姿が見られました。」

「ゴミがほんまに少のうなったな。ええこっちゃ。」「ゴミのない



町内の中心部を除いた道路沿いの廃棄物を回収。あの奥にもゴミがあるんやけどな...



当日は、98名が千種保健福祉センターに集合。開会の後、20グループに分かれ作業開始!

ところには、誰もよう捨てんなあ。」など、参加したみなさんは、最後まで熱心に作業に取り組みれていました。

ひとりひとりの心掛けが、地域の環境を守ります。今後この取り組みが、住みよい地域の一助になればと思います。

(千種支部 小原志のぶ)